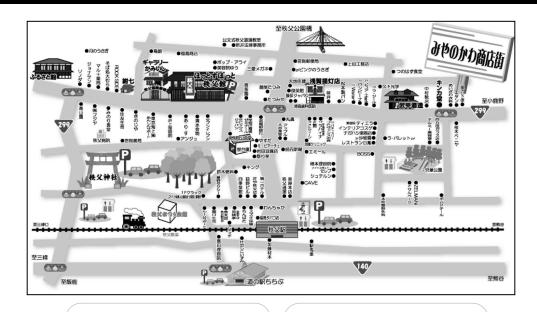
みやのかわ商店街振興組合

埼玉県秩父市

http://www.miyanokawa.com/



組合概要

発足年 1990年(平成2年) 組合員数 119店

組合の組織

組合役員数 22 人 出資金 一口:10,000 円 賦課金 月:500 円

組合員構成

生鮮食品等 3店 / 総合食料品 3店 / 食料品以外 113店

30年前に始めたナイトバザールを切っ掛けに商店街が復活!

アニメを商店街ぐるみで応援し世界各国から集まるアニメの聖地

遡ること約30年前、閑散としていた商店街の青年部が目覚めてナイトバザールをスタートさせた。毎年数を重ね270回を既に越えている。「できるものは何でも挑戦する」をモットーに、毎回新しいイベントを企画し、実行している。常に新しい企画に挑戦していることがお客様を飽きさせない秘訣である。また、商店街メンバーがやってみたいと考えることをみんなで応援して実行する姿勢が、組合員店舗の後継者にも伝わり、当商店街では次の世代へのバトンタッチも円滑に進んでいる。ナイトバザールの恒例行事となっているがサンバである。本場浅草のチームがやってきてサンバのリズムが流れると近隣住民が続々と集まってくる。夜市をお祭り騒ぎで盛り上げている。商店街には活気がもどってきたが足りないのは若い買い物客であった。そこに突然現れたのが秩父を舞台とするアニメである。当商店街も含め、まち全体で登り旗を立てて、放映時から応援を行った。喜んだアニメファンがSNSで発信してくれたので日本だけでなく世界各国から若者がやってくるようになった。

買物したくても出てくることが難しい地域や施設に商店街が出張

商店街の復活には成功しているが、近隣住民の高齢化は進んでおり買物に来たくても来ることができない方が増えていることが分かったのである。当初は御用聞きをして、お届けするサービスを始めた。しかし、住民が本当に求めていることは「実際に商品を見て、触れて買物をする」ことであった。そこで、大きく方針を変更して始めたのが「出張商店街 楽々屋」である。食料品はもちろん日用雑貨・衣類等、日常生活に必要な商品を組合員店舗から預かって販売する。販売する場所は地域の診療所や老人介護施設であるが、地域毎にほぼ決まった場所で定期的に開催されている。毎週2日程度の頻度で行っており、人気の程が分かる。地域の高齢者には生活の支援も行っている。健康で元気な高齢者が、助けを求めている高齢者を支援するサービスである。「ボランティアバンク おたすけ隊」である。有償でのサービスであるが、支援した高齢者には謝礼が支払われるので、商店街での買物にも繋がっている。

商店街で地域コミュニティを創り出す「まるごと大家族」

商店街は買物の場であると同時に、地域住民が集まって来て交流するコミュニティ機能を果たしてきた。しかし、車社会である現代この機能が失われつつあることに当商店街は気が付いた。そこで、「地域コミュニティの再構築」を目指して始めたのが「まるごと大家族」である。月に一度、商店街の決められたお店で、町会の人や商店街関係者がみんなで食事をする。町会の定期的食事会と位置づけており会費は500円。親子三代で食事に来ていただく環境を作ると同時に、行ったお店で知り合いの家族との交流ができるよう、「相席大歓迎」をお願いしている。参加者もそれを目的に1人暮らしの方が参加することもある。提供するメニューは開催する店舗に任せているが、得意のメニューを予算内で提供してもらうことをお願いしている。まるごと大家族には商店街で働く人の家族も対象としている。町外であっても、同じ学校に通っている子供同士で参加することもあり、当店街は近隣住民の交流の場としても復活している。



近隣住民が一緒に食事を楽しむまるごと大家族



介護施設で行った出張商店街「楽々屋」